

△ぐちゅ……』

(興奮に勃起する音)

リリウ

「あつ……えへ、へへ……んふ♪

ぴくって、貴方のおちんちん……跳ねて答えてくれました♪

ふふ♪ まだ、懺悔したい罪、おありますねっ♪」

リリウ

「私の体に、罪の告白……されたいんですよ、ね?

私が、私の体を使って頂いて、貴方の懺悔を受け入れたいと思っているのと同じくらい。

貴方も私の体に、罪を吐き出したいと思っていらっしゃるんですね?

んつ、あはあ♪」

リリウ

「……はい。であれば、勿論、喜んで♪

どうか私に……私の体に、貴方の罪を教えて下さい。

そして……」

リリウ

「許されて……くださいっ♪ はあー……♪」

△ぎし……』

(興奮した男の足踏み)

リリウ

「ふふ♪ 喜んで頂けていますか? エヘ……嬉しいです♪  
ですが、折角新しい罪の告白をして頂くというのであれば。

前の懺悔の名残が残つたままというのも、少し勿体ないですよ……ね?」

△くちゅう……』

(白濁混じりにのめるイチモツを触る音)

△しゅり……』

(リリウがしゃがむ音)

リリウ

「んつ……やつぱりおちんちんにとろとろに、絡んじやつてます。

さつき手で擦つたのと、貴方も罪をいっぱい吐き出してくれたからでしょうか?

ローションも殆ど流れちゃって、貴方の出してくれた精液だけになつちやつてますね♪」

リリウ

「では……懺悔の前の清めの儀式、ということです。  
貴方の罪の名残を口で……舌で舐めとり、清めさせて頂きます、ね♪  
はあ……むつ♪」

リリウ

「んつ、ちゅ、じゅる……れろ、れろ……ちゅつ、ちゅうつ♪  
んんう……罪、深い……味が、します♪ んちゅ、ちゅう……れろ、れろ、れろおーつ♪  
んちゅうー……れろ、れろ、ちゅう、れろおー……れろ、ちゅつ、ちゅつ♪  
んふう♪」

リリウ

「んちゅうつ、ふふ……べつとり、絡んできます♪  
ちよつと、舌を絡めて舐めたくらいでは……れろ、ちゅう……れろおつ♪  
んつ……取れそうに、ありません♪ はむ、ちゅうつ♪  
ちゅつ、れろおー……ちゅつ、ちゅつ♪」

リリウ

「はむつ、れろ……ちゅつ、ちゅつ♪  
こんなに……れろおつ、ちゅつ……べつとりと♪  
取れなくなるぐらい……懺悔に、集中して……れろおつ♪ んつ……くださったん、です……ね?  
ちゅつ、れろおー……ちゅつ、ちゅつ♪」

リリウ

「はあー……♪  
こんな、味なんですね。貴方の罪の味、男性の……精液というのは。  
んつ、れろおー……ちゅつ、んんつ♪  
初めて、口にしましたが……はむつ、れろ、れろ……れろおーつ♪」

リリウ

「ちゅるつ……んつ、ぶはつ♪  
はあー……あは♪ なんだか、胸がドキドキする……味がしてます♪  
聖水ローションを使つたせいなのか、少しだけしょっぱいような味もして。  
でも、舌ですくつて口に入れると……ねとつとした感触が舌からとろりと口の中に広がつていつて。  
んつ……れろおー……ちゅつ、じゅる♪」

リリウ

「ん、ふう♪  
口の中で、唾液と絡むと薄まるのに……ソコにあるつて存在感はずつと残る♪  
熱く、絡まって、口の中で主張して……この味がどんどん広がつていくみたいで。  
んつ……れろ、れろ、ちゅつ……ちゅつ、れろおー、ちゅつ、ちゅつ、じゅるつ♪」

リリウ

「ちゅるーっ……んんうつ♪  
ふうー……んんつ♪ はあー♪

とても、罪深い……味がします♪ すごく、救つてさしあげたくなる……そんな味です♪  
んふ♪ ちゅつ♪」

リリウ

「ん、れろおー……ぴちやぴちや♪

はあー……♪

男性器である以上、汚れている場所でもある……という知識はあるのですが。

この、味……♪ おちんちんにこびりついた精液の、罪深い味が舌に触れると……ちゅるつ♪  
んつふう♪ 私に罪の告白をするために、貴方が我慢して下さった結果の味なんだと思って。  
筋（すじ）ばつた裏の所も、ぷつくり……ふるふる震えてるおちんちんの先も♪  
とろとろ絡んで匂い立つ精液も合わせて……愛おしい（いとおしい）もののように思えてしまつて、ずっと……  
舐めていたくなつちやいます♪

んつ、れろおー……れろ、れろおー……んんつ♪」

リリウ

「はあー……ふうー……♪

……くわえます、ね？

んつ……はあー、んつ……むつ♪」

リリウ

「んつ、じゅる、ちゅうー……れちゅうつ、んじゅる、ちゅうつ……れろ、ずちゅ……ちゅる、ずつ、ずちゅ、

ちゅうつ♪

んーふ♪ んつ、んちゅ、ちゅうーー……じゅる、じゅる、じゅる、ちゅうつ♪  
ちゅずる、ちゅず、ずるうーー……ちゅうううつ、ずずつ、ちゅぶつ、ちゅう、ちゅう、ちゅううううつ、

♪」

リリウ

「ん、ちゅるつ！ ……つぶはつ！

はあー……あー……はあー……あは、んんつ♪

くちゅ、くちゅ……んふ♪」

△しゅり……△

(近づく衣擦れの音)

リリウ

「んつ、くちゅ……ぐちゅ……んつ、ご……つくんつ♪

ぶつ……はあー♪ えへ、綺麗に、なりました……ね♪」

リリウ

「はあー……あはっ♪

周りだけじゃなくて、おちんちんの中に残つてた精液も、ちゅうーつて吸わせて頂きましたから、すつきりさてました。

うー……、折角舐めたのにここだけちょっと残つちゃつてますね。

最初に、此方も舐めておけばよかったです。むう、失敗しました。んつ……ぢゅるつ、ちゅぶ、ちろつ♪

リリウ

「ちゅぶ……はあー。

んつ、これで手も綺麗になりました♪

ほら、舐めさせて頂いたおちんちんと同じ位綺麗になりましたよ！……なんちやつて♪

あう……ごめんなさい。ちょっと調子に乗っちゃいました。

あの、大丈夫ですかね？ 貴方のおちんちんを綺麗にするのは一番力を入れたので！

中に残つてた精液もちゅうつて吸つて、スッキリ綺麗にしたつもりですから！

……心配、しないで下さいね？

♪ぎし……♪

(男の頷く音)

リリウ

「ん……あは♪ 貴方に、ちゃんとスッキリしてるって言つて貰えると、安心できますね……えへへ♪

ふふ♪ おちんちんを綺麗にした事自体は懺悔ではありませんが、貴方に喜んで頂けていたようならば、何より

です♪

ふふ……ちょっと、嬉しくなつちやいますね♪

リリウ

「さて、では……貴方のモノも綺麗になつて。

舐めてる間にまた大きくなつて貰えた所ですし、次の懺悔に……移りましょうか？

次は、どんな罪に覚えが御座いますか？

♪しゅり……♪

(男の返事で動く衣擦れの音)

リリウ

「……なるほど。

先程までの色欲や憤怒、傲慢とはまた違つたものなりますね。

……身体や精神の疲れから、或いは理由が分からずとも、兎に角やる気が出づにやるべき事を後回しにしてしま

う事がある、ですか。

新しい事を始めたいのに中々出来なかつたり、そういう事にも当てはまる形でしようか?」

リリウ

「そうですね……。恥ずかしながら、私からも一つ告白すると……私自身もそうした事はありますし。そのような時は自分が気付かずとも、何かしら疲れが溜まつていてる事も多いように思います。なので、ゆっくり休まれるという選択自体は決して間違つていないと思つています。

けれど……そうですね。あえてソレを罪とするなら……怠惰の罪、となるでしようか?」

リリウ

「うーん、この場合は……。怠惰……怠惰の罪、という事であれば。何かしら自ら動く経験を積む、というような形が良いのかもしませんね? であれば……」

リリウ

「んつ、こほんつ! 先ほど、お伝えさせて頂いた通り。

貴方が罪の告白をし、懺悔として一生懸命我慢をして下さったのもあって……私も、その……はい。貴方の新たな告白で、懺悔で、私自身の体をも使って貰う事で。もつと深く、体の奥から貴方が許されているのだと感じて頂きたいと思つております」

リリウ

「なので……少し、失礼致します、ね? んつ……」

△しゅる……しゅる……すとん△

(シスター服を脱ぐ音)

リリウ

「ふう……。どう、でしよう?

おかしくは、ありませんか?

服を脱いで……下着の、衣装だけに……なつてみましたが。

その、修道服を脱いだからといって、私の信仰心に変わりがあるつもりはないのですが。貴方から見て、その……懺悔するかいが減つてしまつてるので無ければいいのですが……あう」

リリウ

「んつ……あは♪

気にならないのなら良かつたです♪

であればやはりこの姿で、イタしましょ♪ この姿なら、丁度胸や……女の子の場所。

私の……おまんこ、も……じっくり触つて頂けますから」

✧くちゅ✧

(リリウが自分から秘所を広げる音)

「はい……ここです。

貴方にも、既に触つて頂いた……この場所です。

ここに、貴方のおちんちんを迎えさせて頂き、貴方の好きに動いてもらう。つまり、貴方が自発的に動く事自体を、怠惰の罪への懲悔とする形で……如何でしょう？」

リリウ

「あっ！ ふふ♪

貴方のおちんちん、ぴくんつて跳ねました♪ 気に入つて頂けたつてことですか？ ふふ♪」

リリウ

「んっ……。服を脱ぎ、胸も、おまんこも全部見られてしまうこの姿をしつかり見られてしまうのは、私も少しどキドキしていたのですが。

えへ♪ そのように喜んで頂けているなら、やつて正解でしたね♪ ふふ♪」

リリウ

「どうでしよう……そちらからも、きちんと分かりますか？ こうして、自分で広げてみても……その、実際に男性を迎えた事がないので、間違つていなか良くなないものでして。

変な所は……ありませんか？

シスター達からは、私はピンク色が強くて子供っぽい、などとからかわれる事があるので……おかしく、ないといいのですが。

良ければ、よく見て頂いても……いいでしようか？」

リリウ

「んっ……貴方の視線が、おまんこに当たつてるの……分かり、ます。 じ、実はたまに……本当にたまにですが、自分で……少し、触れてしまふ事があるので……おかしく、ないそのせいで、変になつてないといいのですが……んん♪」

リリウ

「あ、あの……な、何か……言つて、頂けると！ その、し……視線は強く感じるのですが、あう……無言でいられると、少し怖いと言いますか。 へ、変なのかもと不安になつてしまふ所があるので……あう。 も、もつと良く見ないと分からぬでしようか？ でしたらその……お尻も向けてしまふのが失礼でなければ、今からそちらにおまんこを向けてますので。 もつとよく見て頂いて構いませんから、その何か……仰つて（おっしゃつて）頂けると」

✧しゅる……✧

(体勢を変えお尻を向ける音)

✧つぶ……くちゅつ✧

(向けられた場所に触れる音)

リリウ

「んつ、ふあつ！？ ひやつ……わわ！」

あ、あの……どうされたんですか！？ お、おまんこを向けた途端触られて！？ い……いきなり触られると吃驚してしまうので、一言声をかけて頂けると嬉しいのですが！？」

✧くちゅ、ぐちゅ……✧

(熱心に秘所を触る音)

リリウ

「きやつ、はう……んんつ♪  
や、もお。すごい、熱心に……触られるんです、ね♪  
あう……んつ♪ 変、ではない……という事で、いいのでしょうか？」

✧しゅる……✧

(肯定の頷く音)

リリウ

「んつ♪ ふふ……思わず、弄りたくなるほどのモノと、気に入つて頂けたのなら、良かつた……です、んつ♪  
あつ……う、んんつ♪ んつ、ふ……あんつ♪  
で、でも……そんな、いっぱい弄らないで……下さい、ね？  
その、元々……貴方のを弄つていて、濡れてしまつていたのもあつて。  
もう液が……溢れて（あふれて）、しまつてるので……こんな風に、んつ♪  
弄られていると、気持ちよくなつてしまいそうで……んんうつ♪」

リリウ

「あは♪ でもとりあえず、私のおまんこが……貴方のお気に召して、懲悔をしたくなる場所と思つて頂けてい  
ると分かつたのは良かつたです、んつ♪  
もう、弄られて、液もこんなに……垂れて、潤つて（うるおつて）……しまつて、いますし♪  
そろそろ、怠惰の……罪を、克服するため。  
勤勉さを、学ぶ……懲悔を、いたしましよう♪」

リリウ

「私の、おまんこに、んんうつ♪

貴方の、おちんちん、をつ♪

挿れて（いれて）、動いて……懲悔して下さいます、か？」

△くちゅ……ぐつ!』

(挿入の音)

リリウ

「ふわっ!？ あつ、んんつ、くつ……ううんんつ!  
はあー……あーつ……う、うん……ああ……。  
あり、がとう……ございますつ。

挿れて、くださいました……ね♪」

△くちゅ……づつ△

(ピストン音)

リリウ

「んんう、そう……ですっ!

その、感じ……でっ。どうぞ……私の奥まで、ぐつと、力を込めて……んあつ!?

リリウ

「んつ、うつ、あ……んくうつ!

私、の中……搔き分けて……はい、つて……くつ、んんうつ。

ふう……はあ……ん、え? 血……ですか?

ああ、話に聞いてましたが……やっぱり、出ちやうモノなんです、ね」

リリウ

「あう……お伝え、していた通り。私は、男女の交わり……はふうつ。懺悔は、初めて、ですから……んんうつ。初めて、だと……こう、なるとは……話に聞いていましたので。どうか……お気になさらず、このまま続けてください……んつ」

△ぐちゅ……△

(ピストンの止まる音)

リリウ

「あつ、え……どう、されたんですか?  
動いて、下さっていいんですよ?  
……止められ、ちやうんですか?」

出来れば……このまま、続けて欲しいんですけど」

リリウ

「あう。血を……気にされたんです、か?  
えっと、確かに少し痛みはあります……ですが、私としては止めて（やめて）頂きたくないと、言いますか……  
その。  
出来れば……このまま、続けて欲しいんですけど」

リリウ

「懺悔として、続けて頂きたいのもあるんですが……あう。

三七

貴方に、おちんちんを……私の、おまんこに、挿れて頂いてから……痛くは、あるんですけど。  
でもそれよりも、心地よさが……あると言いますか」

リリウ

一貴方か突いて 腰を弓いて

貴方が与えてくれる体の中を押し広げられる感覚と、それと一緒に走る痛みが」

リリウ

「貴方が一生懸命に懺悔をしてくれてはいるが、罪を私にぶつけてくれてはいる証（あかし）のように思えて、とても……とても、心地よく感じてしまつて……すごく、嬉しいんですつゝ」

リリウ

「ですからどうか、遠慮なさらず、このままっ♪  
突っで、引っで……おちんちん、おまんこござりつけで、くださ、ハツ♪

私を使って、懺悔……して、下さいっ♪

(本格的なヒストンが始まる音  
以下背景でうつすら)

リリウ

これが私は、好き……なんですか♪ んんう♪

三

こんな、風に……遠慮なく、出し、入れ……して頂けるの、うれ……し♪

あたまあ、とても、ふわふわしておま……すり♪

痛いのも、なんだか……どんどん、刺激に紛れて、分からなくなつて、いつて……あうんつ♪  
体、があ♪ 貴方のおちんちんの形を、感じるためだけのモノになつて、いくみたいで……んうつ♪  
それが、うれし……。胸の、奥……すごく、ポカポカ、しま……すつ♪ あつ、んつ、んつ、んんうつ♪

《背中から伸し掛かるような体勢になり、強く

（背中から伸し掛かるような体勢になり、強くなるピストン）

リリウ

「んあつ、ひつ、あつ、んつ、んうつ、んつ♪

や、あ……♪ そんな、体を押し付けられちゃ……ぐりぐり、おちんちんもっと入って、入ってきちゃあ♪

私の中、貴方のおちんちんで埋まっちゃい、ます……あああつ♪」

リリウ

「あつ、あつ、あつ♪

そ、そうです……このままあ、この感じでえ、あああつ♪

どうぞ、もっと、ぶつけ……腰、ぶつけて、くださ……んんうう♪

私のおまんこの感覚を感じて……くださつ、私を感じて……くださつ、い……んあああつ♪

わたし、もお……貴方の、おちんちん♪ 貴方の……罪をお、精をお♪ いっぱい、感じます……からあつ♪

リリウ

「いっぱい、いっぱい……んんうつ♪

おまんこ、でえ♪ 貴方が破つて、くれたあつ♪ 女の子、場所、でえつ♪

貴方の懺悔え、感じて……受け、とめ……ます、からあつ♪

んあ、あつ、あー……んんうつ、あつ、あつ、あつ、あんつ、あつ、んんうつ♪

リリウ

「ひうつ、ひんつ、あつ、ひやうつ、んんうつ、ああつ♪

かんじま、す……貴方の、おちんちん♪

ぐちゅ、ぐりつて……いっぱい、私の中を膨らませて、ぐりつて歪ませて……抉つてえ♪

私を、求めてくれてるの、濡らしてくれてるの、わかりま……すつ♪」

リリウ

「うれしつ……うれしい、ですつ♪

私、こういう事……見習いのうちはあ、懺悔の相手をするのは……早いつてずっと、言われてました、からつ！  
こうして、ちゃんと出来て……貴方の、罪をぶつけて貰えてっ！ 求めて、貰てるのつ、すごく分かつてえ♪

貴方の、懺悔……ちゃんと、出來てるつて思えてえつ♪ 私、すごく……すごく、嬉しい、ですつ♪ あつ、あ

あつ、あああつ♪」

リリウ

「うんつ、うんつ、や……あつ、ああ、んんうつ♪

だめ、だめだめ……私、貴方を感じ過ぎちゃ……どんどん、胸の中疼いて、たまらなくなつちやあ♪

やあ……やあ、やあやあやあつ♪ こんな、こんなに……貴方の罪い、おちんちん……感じてしまふと、私……

私つ♪」

リリウ

「あたまあ、まつしろになつちやあ……ひうつ、ああつ♪

貴方ので、頭……真つ白になつちやいま……す、う……んつ、んうつ、んつ、んつ♪

だめ、だめだめ……も、もう、私、頭ふわふわしちやつてなにも……わからなつ、わからな……いいつ♪

ひやつ、あつ、あつ、あつ、んつ……んんうううつ♪♪

リリウ  
「んつ、あ……やあつ♪ だ、め……んつ！」

あつ、あああああああああああああああああつつつつ♪♪」

△どくつ、びゅつ、びゅるううつ！▽

(射精音)

リリウ

「あー……はあー……あつ、はあー……ああ……ふう、はあー……ああ♪」

リリウ

「あなたの、つみい……私の中、溜まつて……ます、ああ……♪  
はあー……あつ、んつ……ふうー……♪

すごく、いやらしくて……罪深い、あつたかい、熱が……どくどく言つて、入つて、きてるの、わかります……  
あー♪

んつ……あ、はあ……♪  
アソコ、が……あつくて、あつくて……私、この感覚の中に……溶けていつちやいそう……です♪  
は、ふ……う♪」

リリウ

「はー……ふー……んんう♪  
懺悔を、一生懸命して頂くと。私も、こんなに熱を感じるものなんですね。

あは……ふふ♪

私、今まで……懺悔を、する方（かた）だけが……熱を覚えるんだと、思つてました。  
受ける側も、こんなに……甘く、痺れてしまふなんて……想像も、してませんでした♪  
ふうー、はあー……ふふ♪」

リリウ

「えへへ……実は、途中から……少しだけあつた痛みも、何処かに吹き飛んでしまつていて。  
貴方の罪を、懺悔を……私の中に受け止めているんだって思いだけが、熱と一緒にどんどん体中に広がつてい  
つて。

貴方の……おちんちんが、おまんこの中を広げてくれるたびに、強くなつて……それが嬉しいくて♪  
……えへ♪」

△しゅる……▽

(体の位置を変えて顔を合わせる音)

リリウ

「そうして、胸の中がポカポカして、痺れて、甘く切なくなつて……。  
その感覚があつたから、貴方の懺悔をちゃんと受け止められたんだと思います……えへへ♪

私……それがすごく、すっごく♪  
ふふ♪ んつ……ちゅつ♪

嬉しかったんですよ?